

第1章 大学院研究科の使命および目的・教育目標

【到達目標】 聖学院大学大学院・研究科の理念と目的はプロテスタント・キリスト教の精神に基づいており、自由と敬虔の学風によって真理を探究し、人類の進展に寄与せんとする者の学術研究と教育の文化共同体を構成する。その核心を近代デモクラシーに持ち、現実諸問題と深い関連性を有しながら、問題解決のための政策や指針となるような研究教育を高次のレベルで実践し、明日の社会を担う人材を養成する。以下、この目標実現のために、下記の項目をポイントとして点検評価を行う。

- ① 大学院・研究科の理念・目的・教育目標は明確になっているか。
- ② 大学院・研究科の理念・目的・教育目標は周知・徹底されているか。
- ③ 大学院・研究科の理念・目的・教育目標は社会的状況や要請に応えるものとなっているか。
- ④ 大学院・研究科の理念・目的・教育目標は教育研究活動に具現化できているか。

1 政治政策学研究科の理念・教育目標

(A: 大学院研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性)

(B: 大学院研究科の理念・目的とそれに伴う人材養成等の目的の達成状況)

【現状の説明】 大学院政治政策学研究科修士課程（以下、本章においては「政策研」という。）は1996年4月に発足して以来、大学卒業生に対する高度な研究と教育を教授するという目的に十分適合した成果を挙げている。以下、政策研の理念と現状などに関し述べる。

政策研の理念・目的と教育課程は、他の「政策」を冠する大学院に比べて、顕著な特色を有することを強調しなければならない。今日、政策学は政治学を始めとする社会学・行動科学の分野において急激に発展しつつあるが、その多くは、国家・公共体・企業・社会集団の意思（政策）決定過程のシステム分析やシミュレーション、そしてそれらに必要な概念・方法等の開発といった多分に技術的専門的な学問体系を形成している。中にはコンピュータを駆使するオペレーションズ・リサーチやモデル構築の高度に技術的な手法も形成されている。しかし、本大学院では、そうした学問的アプローチにおいて、ともすれば軽視あるいは排除されがちな人間的な価値や民主主義的な理念を重視し、それらの検討や認識なしには、政策学はグローバル化が進む時代的・社会的要求に応えるものとはならないという基本的視点にたって、技術と理念、科学と価値の統合を図ろうとしている。したがってカリキュラムの編成も、そうした基本理念に基づいて組み立てられており、伝統的な政治学と新しい政策科学、さらに高度な職業人の養成を求める実践的諸学とをバランスよく配合することによって、単なるテクノクラートや「魂のない専門家」を養成するのではなく、人間性と専門的能力を備えたリーダーを世に輩出そうとするものである。

大学院の今日的な社会的役割は、学術研究の推進や優れた研究者の養成、さらに国際

第1章

大学院研究科の使命および目的・教育目標

交流・国際的貢献のみならず、高度な専門的知識・能力をもつ職業人の養成と再教育が強く求められている。政策研には開設以来社会人学生が多数学んでおり、そのニーズと社会人教育の責任の大きさを自覚せざるを得ない。

【点検・評価】 本大学院の教育理念の達成と今日の社会の必要に応えるために、日本におけるデモクラシー研究の拠点として「デモクラシー」の研究と教育とをその基礎に据え、政策および政策決定過程の科学的分析や理論化を推進し、そのうえで地域政策と地域デモクラシー、開発政策と経済的デモクラシー、租税政策と法的デモクラシー、社会・福祉政策と社会的文化デモクラシー、さらに国際化政策と国際的デモクラシーなどの研究・教育を含む高度な研究機関となることを目指し、以下の具体的人材養成目的を設定し、これを達成することに努めている。

- ① デモクラシー思想を基盤とする問題発見・解決型人材の養成
- ② 地域の自治体、企業体等の職員または社員の高度専門的職業人としての再教育
- ③ 高等学校・中学校の社会科教員に対するデモクラシー理解教育
- ④ 専門職を目指す者への幅広い視野の育成と学問的能力の向上
- ⑤ 地域住民等の生涯教育の一環としての高度専門的教育

大学院開設以来、この10年間については理念に基づいた社会的要請に応える大学院としての役割を果たしているものとする。例年、政策研には学生定員の3倍強を超える入学希望者があり、その大半が社会人である。勉学の間から離れていた社会人の学習の便宜を図るため、昼夜間開講制、セメスター制などのシステム整備だけではなく、学生定員を越える教員が学生の研究講義や研究指導にあたり、教員とマンツーマンで懇切丁寧な指導教育がなされている科目も少なくない。

修了生も順調に育って社会に出ており、大学、研究所、自治体、企業、高度な専門職等、様々な方面で活躍している。また、一層の研究を目指して博士後期課程を有する大学院へ進む者も少なくない。

【課題・方策】 今後の課題として、社会人学生の強い学習と研究の欲求に応えながらも、ともすれば専門性やテクニカルな視野狭窄に陥りやすい社会人学生に対して、幅の広い研究視点と学問的基礎学力を身に付けさせることに重点を置く必要がある。専門職大学院とは異なった方法論で、高度専門的職業人としての再教育を行わなければならない。同時に、研究者として歩むことを希望する者に対しては、教員の研究指導者としての一層の能力向上、外国を含む他大学等への派遣および提携校協定の確立、研究者の定期交流、総合研究所とのより緊密な提携と協力関係の確立、在学生の研究発表の奨励とその指導助言等の必要性がある。